

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
会長 門前 智
事務局長 齋藤 昇一
<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>
印刷所 ㈱ 有 伸 商 会
TEL (011)814-6211

第26回 読書感想画中央コンクール・ 第2回 全道コンクール審査終了

第26回読書感想画中央コンクール・第2回読書感想画全道コンクールの審査が1月10日(土)、毎日新聞社北海道支社で行われました。応募作品は680点、昨年の約2倍になりました。小学校低学年・小学校高学年・中学校・高等学校の4部門それぞれから最優秀賞、優秀賞、優良賞、奨励賞、学校種別に学校賞が選ばれました。

最優秀賞



「すてきなどんぐり村」 函館市立本通小学校1年
『どんぐりむらのぼんやさん』 竹田 亥 吹
(なかやみわ 作)



「ヴェーヴァルトとの出会い」 札幌市立福住小学校5年
『風の中のマリア』(百田尚樹 著) 西脇 世 莉



「少女の眼で見た世界」 東川町立東川中学校2年
『カンヴァスの向こう側；少女が見た素顔の画家たち』 村田 遼太郎
(フィン・セッテホルム 著 柗谷玲子 訳)



「手の中の記憶」
北海道石狩翔陽高等学校2年
大 門 紘 子
『また会いたくて』(SINKA 著)

札幌市本郷小	2年	佐藤ミチル	同上	3年	藤田 月菜	同上	5年	関 革道
同上	2年	丸本 隼輝	同上	3年	佐藤 由菜	同上	5年	橋本 満暁
函館市日新小	2年	佐々木琉汰	同上	3年	菅谷 翔大	同上	5年	穴田 瑛大
同上	2年	佐藤 心	同上	3年	千葉 虎我	同上	5年	澤田 葵
教育大学附属札幌小	2年	亀山 寧々	同上	3年	宇田 美里	同上	5年	伊勢 美月
札幌市鴻城小	2年	木下 依音	同上	3年	菊地 梨桜	同上	5年	川村つぶら
同上	2年	三浦 紗奈	同上	3年	中山 真緒	同上	5年	芳村 澄
旭川市永山南小	2年	片岡りみな	同上	3年	竹林 大地	同上	5年	寺島 麻
札幌市東川下小	2年	能登 絢花	同上	3年	竹内かなみ	同上	5年	上口 璃久
札幌市本郷小	2年	松下 菜美	札幌市新琴似南小	3年	池田 栞	同上	5年	上村 甲晟
同上	2年	角 架夢	同上	3年	五十嵐天遥	同上	5年	松本 歩那
同上	2年	山田 航暉	同上	3年	森 彩華	同上	5年	金森 千花
函館市中央小	2年	渡辺 陸	函館市石崎小	3年	山田 一輝	同上	5年	芳賀くるみ
同上	2年	中島慎太郎	函館市青柳小	3年	齊藤かれん	同上	5年	大山 小夏
同上	2年	宇佐美夏希	同上	3年	五十嵐尚斗	札幌市新琴似北小	6年	齊藤 優奈
同上	2年	加藤 ゆら	同上	3年	曾我 風太	奨励賞(中学)		
同上	2年	蛭名 遥香	奨励賞(小高)			斜里町斜里中学校	1年	橋本 幸奈
同上	2年	齊藤 璃恋	札幌市手稲東小	4年	北守 香音	上川町上川中学校	2年	住友 絢夏
同上	2年	太田 舞織	札幌市真駒内桜山小	4年	赤松 梨奈	奨励賞(高校)		
同上	2年	川口 頼晟	札幌市福住小	5年	谷本 叶夢	札幌光星高	1年	曾根 毬恵
同上	2年	四氏 悠貴	同上	5年	浅野 美桜	清水高	1年	上西 月花
同上	2年	小林 信瑛	同上	5年	馬場 冬姫	石狩翔陽高	2年	三浦 祐花
札幌市元町小	3年	川合 鈴音	同上	5年	川窪 佑香			
同上	3年	敦賀 晴紀	同上	5年	二瓶 穂香			

第26回読書感想画中央コンクール・第2回全道コンクール [総評]

絵から聞こえてくる声

北海道造形教育連盟 会長 **安木 尚博**
(札幌市立札幌小学校 校長)

昨年に引き続き、今年も全道各地より680点もの作品が寄せられました。昨年の2倍近い点数が集まったこととなります。全道コンクールが今年で2回目であるということもありますが、本展に対する関係各位の多大なるご尽力の賜でもあります。心より敬意を表します。

さて、本展は読書から得た感動を絵に表現することを通じて、読書力、表現力を養うとともに、読書活動の振興を図ることを目的としています。

本を読んで、強く印象に残ったことやその場面を絵に表すことは、自分自身の感覚を生かし、目に見えるものを単に再現するのではなく、自分の世界を創造することなのだと思います。年齢差によってその中身は異なるものの、描かれた1本の線から、使われた色から、その意味を探りながら、より描き手の思いが表現されている作品を選考しました。

小学校低学年では、読んだ本の世界に入り込んで楽しく遊んでいる様子が、強く伝わってくる表現を大切にしました。その年齢にあった表現であることは大切な事です。高学年では、自分が表現したいものやことを、工夫して表していることを重視しました。

中学校、高等学校の作品では、読んだ本の主題に迫る表現であることが求められます。そのための絵画表現は、ある意味本の世界を飛び越えた描き手自身の世界とも言えます。構図や色彩で、自分のイメージを客観的な表現で具体的な作品に仕上げているような力作もありました。本を読むことを楽しみ、絵を描くことを楽しいと感じさせる多くの作品に出会えたことは何よりでした。

「作品から、描き手の声が聞こえる」そんな自分の表現を、今後も期待しています。

第47回 北海道学校図書館研修講座 日時：2015.01.06 会場：かでる2・7

講演「本の力、学校図書館の力」～自己をみつめ、歴史をつづる～

講師 渡邊重夫

講師紹介（北海道学校図書館協会会長 門前 智）

渡邊重夫先生は、高等学校長・大学教授等を歴任されるかたわら、学校図書館活用の重要性や「人」(司書教諭・学校司書)などの問題について、長年にわたり著書や講演会などで改善を訴えてこられました。これまでも、北海道学校図書館研修講座では、「レファレンス実習」講座の講師をお務めいただくなど、ご尽力をたまわりました。現在は、札幌市学校図書館アドバイザーとしてもご活躍中です。今後も、当協会顧問として様々な御助言をいただくこととなりますが、今回も前回に引き続き、ご講演をお願いすることになりました。

1. 「地教法」と学校図書館資料

昨年の講演では、マンガ『はだしのゲン』(中沢啓治)について話をしました。「松江市教育委員会は『はだしのゲン』の描写が過激だとして、松江の全小中学校に同書の閉架要請をした」、松江の地元紙『山陰中央新報』が、こう報道しました(2013.8.16)。この報道を機に、『ゲン』問題が全国に広がるなか、松江市教委は臨時会議を開催し、「閲覧制限措置は、市教委が教育委員会会議に報告せず独自の判断で学校に求めている。このことは、手続きに不備があるため、要請前の状態に戻すのが妥当」との結論の下、閲覧制限の撤回を決めました。

この件以来、『ゲン』の撤去や閲覧制限に繋がる陳情は、全国各地の自治体の議会や教委に多数ありました。そのなかで、こうした陳情を審議した東京都練馬区教育委員会は、「学校図書館における図書の選定、購入、取り扱い、廃棄は、指定有害図書以外の図書については学校の実情に沿って、各学校長の判断のもとに行われるべきものであり、教育委員会が一律に統制を図るべきものではない」との結論を出しています(2013年12月2日)。学校図書館蔵書に対する学校の「自主性・自立性」を尊重した対応です。この対応は、多くの自治体にとっては、先行的対応として評価されるものだと思います。そして、これにより、学校図書館蔵書の取り扱いに対する教育委員会(教育行政)の対応は一応決着したわけです。

しかし昨年3月、大阪府泉佐野市では、市長の指示で、小中学校13校の図書室から、『ゲン』計128冊が、約2カ月にわたり撤去されていたことが報道されました。この指示は、同市で施行されている首長の教育への関与を大幅に容認した条例と深く関わっています。条例では、教育振興基本計画の策定に市長が関与することを明文化しています。『ゲン』の学校からの回収を指示された当時の教育長は、この条例を強く意識したと言います(『朝日新聞』2013.5.29)。そして、この条例の全国版が、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(いわゆる地教法)の改正により全国に広がることとなりました。同法では、首長が主宰する「総合教育会議」が新設され、そこで「教育の振興」が策定されることになっています。これまでは、教育への首長の関与は「間接」的でしたが、「直接」的関与が容認される今回の法改正は、泉佐野市のような学校図書館資料への介入を生み出しかねません。



2. 戦後70年、『アンネの日記』、ナチスの「焚書」

今年は、戦後70年を迎えることとなります。その時を迎えて、改めて「なぜ日本は、あの無謀な戦争に突入したのか」と問い直して見る事が大切だと思います。終戦の翌年(1946年3月)に出された文部省編『新教育指針』には、その原因の一つとして、言論や思想弾圧、そしてその弾圧を担保した秘密警察や拷問などの治安体制の強化が挙げられています。治安維持法を軸とした言論統制法が、もの言えぬ国民を作り、あの戦争を準備していったとの分析です。

その日本の戦時体制の進行と軌を一にして、わが国と同盟関係にあったドイツではヒットラーが政権を獲得しました。その政権に運命を翻弄されたのが『アンネの日記』の著者アンネ・フランクです。昨年、わが国で、その『アンネの日記』を始めとする「アンネ関連本」が、都内の図書館で、次々と破られるという事件が起きました。



ドイツでは、そのアンネが4歳のときに20世紀最大といわれるナチスによる「焚書」が起きました。1933年5月10日の真夜中に首都ベルリンで、広場に集められた巨大な書物の山にたいまつが点火され、およそ二万部の本が焼き捨てられました。

この広場に、「焚書」の対象となった作家・思想家たちのなかで、ただ一人その光景を目撃した人がいました。児童文学者ケストナーです。彼は、「隠惨に大げさにはなばなく焼かれる」自分の本が、「ひらめく炎の中に飛ぶ」のを見ていました。ケストナーは、この日の体験を基に、後日(1958年)ハンブルグ・ペンクラブ大会で教訓的な挨拶をしています。

「自由の戦いが国家の裏切りと呼ばれるようになるまで待ってはいけません。雪玉が雪崩になるまで待ってはいけません。転がる雪玉を砕かなければなりません。雪崩になってしまえばもはや誰にも止められはしないのです。雪崩が落ち着くのは、すべてを下に埋もれさせてしまったあとなのです。(略) 独裁政治が差し迫ってくる時、戦いが可能なのはそれが権力を握る前だけです」

しかし、このとき、ケストナーの本とともに焼かれた黒こげとなった本の一ページに「書物を焼くものは、早晩、人間を焼くようになる」というハイネの詩が書かれていたことを知る人は誰もいませんでした。ハイネは、この日のことを想定してこの詩を書いたわけではありませんが、ハイネの「予言」は、その後のナチスによるユダヤ人の大量虐殺という形で現実のものとなりました。

ドイツの首都・ベルリンにあるベーベル広場の中心には、「焚書」に抗議する記念碑があります。空の書架が置かれた空間が作り出され、「焚書」で燃やされた二万冊の書物を置くことができるスペースがとられています。またこの記念碑の近くには、銅版のプレートがあり、「書物が焼かれるところでは、最後には人間もまた 焼かれるのだ」というハイネの言葉が刻まれているのだそうです。

3. 本の力、学校図書館の力

このような「焚書」が行われた最大の理由は、ヒトラーが「本」そのものの力を恐れたからです。本は、紙とインクでできていますが、著者の思想の体現物です。人間の「考え」が、人間の歴史を作り上げてきたわけですから、人間の考えが凝縮された本は、独裁的政治を考える人にとってはやっかいなものです。自己に都合の悪い「本」を消し去りたい。それは、世に流通する「情報」を統制し、自己に都合の良い情報にのみ国民が触れるようにしたいとする考え方と同じです。

それだけに、子どもに多様な本を届けることによって、子どもを育てていくことは民主主義社会の基盤を形成することでもあります。そのためにも、学校図書館は質的にも量的にも多様な本を収集し、それを提供することが大切です。子どもにとっては生き難いことの多い世の中ですが、本は、子どもの未来を切り開く「力」をもっているのです。そして、図書館担当者は、そうした本（情報）を手渡す営みを通して子どもの未来の創造を支援する役割を担っているのです。

学校図書館研究会inオホーツク研修会

研修テーマ「子どもと地域の未来を拓く学校図書館」～つながる ひろがる ふかめる 学校図書館～

報告：学校図書館研究会inオホーツク事務局長 小松 秀 治（網走市立潮見小学校司書教諭）

学校図書館研究会inオホーツクはできたて2年目です。この団体はオホーツク管内で活動する学校図書館関係者を対象に呼びかけ平成25年度に結成しました。対象は教員に限らず学校司書や図書館司書など学校図書館にかかわって活動する人に幅広く参加を呼びかけています。現在16名の会員ですが、これからの会員増に期待しています。

今年度の大きな事業として、①7月に呼人小中学校において、学校司書とともに学校図書館を利用した学習の公開授業研 ②11月に網走市を会場に研修会を行いました。今回はその研修会の内容について紹介します。

平成26年11月29日（土）から30日（日）にかけて網走市内で研修会を行いました。前年（大空町）に引き続き2回目の開催となります。この研修は『一泊しながら図書館や本のことを語り合う』が目玉です。

第1部：網走市立潮見小学校図書館

講師佐藤敬子氏（北海道学校図書館協会研究部長）から「新聞を活用した図書館の指導と活動」と題し学校図書館経営について積み上げてきた実践をもとに幅広い内容で講演をして頂きました。その後、持ち寄った資料・写真をもとに会員の実践交流

第2部：温泉旅館「もとよし」

食事を共にしながらの交流～各学校図書館の状況や公共図書館・学校司書との連携の情報交流
ナイター交流～各自持ち寄った「お気に入りの本」の紹介。熱のこもった紹介がなされ気に入った本を写真に撮



りあいました。

第3部：2日目朝食後、呼人小中学校の図書館の見学会

予定外ですが急遽企画され、学校司書のいる図書室を見学しました。

今年もよい研修・交流ができ、自分の学校に帰ってから実践できそうなものをおみやげに解散しました。



■第47回 北海道学校図書館研修講座に参加して**「子どものため」という共通理解があつてこそ**

北海道室蘭市立旭ヶ丘小学校 教諭 佐々木 彩 乃

今回の研修講座では、今年度行った授業の学び方指導、読書指導の「実践報告」という形で発表させていただきました。

そこでの協議を終えた今、学校図書館をよりよくし、どのように授業で活用していくかは司書教諭と連携していくことが何より大切であると深く実感しています。

子どもたちは本が好きな子もいればなかなか手にとらない子もいます。先生方は日々子どもたちが本を手にとってくれるよう様々なアイデアを考えています。本の冊数の不足、子どもたちの本を読む時間が少ないなど様々な課題と向き合い、取り組まれています。どれもこれも子どもたちの「本が好き。」「本っておもしろい。」という声が聞きたいという願いに尽きます。

授業の中で学校図書館を活用していくためには何よりも準備が大切です。どんな本があるか、その本を使って子どもたちにどんな力をつけていくかしっかりと押さえておくことが求められます。子どもたちが使いやすいように学校図書館の環境を整えていくことも必要です。それは一人ではできません。毎日の校務の中、一人で行っていくことはとても大変です。そこで学校司書の方や、周りの先生と協力、情報交換をして学校図書館を学校全体でよりよく作っていくことが重要です。そこには先生方の「子どものために」という共通理解があつてこそです。私の授業がいかに周りの先生の協力のもとで行っていたか今回の発表で改めて感じることができました。そして学校図書館を笑顔で利用する子ども、本を手にとり新たな発見をした驚きと感動に満ちた子どもの姿は私たち教師の大きな力となります。

この発表をするにあたり、本校司書の長野さんをはじめ、多くの先生方のお力をお借りしました。この場を借りて感謝申し上げます。

これからも学校図書館で子どもたちに多くの学びを与える授業を考えていき、実践していこうと思います。

■第47回 北海道学校図書館研修講座に参加して**マンガは有効な支援ツール～特別支援学級で～**

旭川市立豊岡小学校 教諭 脇坂 文 貴

今回の研修講座の3日目「校種別選択講座 討議 特別支援」で、発表させていただきました。

折しも、発表の前日から北海道には猛烈な低気圧が近づき、札幌も暴風雪に見舞われました。当初、私は仕事の関係のため、当日の朝旭川から札幌に向かう予定でしたが、職場の方からのアドバイスもあって急遽前日に札幌入りしました。札幌は大荒れで、駅の改札を出た時には、各方面の列車が止まっていて電光掲示板がほぼ真っ黒！「札幌に着けてよかった・・・」と胸をなで下ろしました。突然の予定変更、悪天候、そんな意味でも忘れられない研修会となりました。そんなバタバタとした中での発表でしたが、参加していただいた方から温かい評価をいただけたことは、本当にありがたかったです。

さて、発表内容ですが、「旭川市教育研究会 特別支援教育部 図書館のバリアフリー部」で行ったアンケート調査を基に、特別支援学級に通う児童生徒の学年ごとの読書傾向の変化について話をさせていただきました。

特別支援学級で子どもたちに関わっていると、子どもが本を読みたがらない、読書の幅が広がっていないということはよくあることだと思います。そんな時、さし絵やイラストが有効に取り入れられている本を勧めあげることが、子どもたちの文章理解を手助けし読書の幅を広げるきっかけになるのではないのでしょうか。その意味でマンガというのは、有効な支援ツールだと考えています。また、マンガが楽しく読めて終わりではなく（余暇の1つの手段としては良いのですが）、マンガを使って何を教えるのが大切で、絵本から物語、児童文学へと繋げていくためのスモールステップとしてマンガも活用できるのではないか、そんなお話もさせていただきました。

最後になりますが、このような機会を与えていただけたことで、普段の自分の取り組みを見直し、整理することができました。討議の場では、それぞれの学校での図書館運営の実態や課題について何うことができ、大変勉強になりました。北海道学校図書館協会の皆様、そして参加いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

第40回 北海道指定図書

平成26年度
青少年読書感想文全道コンクール

北海道の先生がおすすめる本

主催/北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社
後援/北海道・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会
選定協力/北海道読書推進運動協議会

小学校低学年の部

ちいさなはくさい
くどうなおこ/さく
ほてはまたかし/え
小峰書店
定価1,400円+税



ぼくだよ ぼくだよ
きくちちき/作
理論社
定価1,500円+税




キリンがくる日
志茂田景樹/文
木島誠悟/絵
ポプラ社
定価1,300円+税



小学校中学年の部

ぼくはニコデム
アニエス・ラロッシュ/文
ステファニー・オグソー/絵
野坂悦子/訳
光村教育図書
定価1,300円+税



あいしてくれて、ありがとう
越水利江子/作
よしざわけいこ/絵
岩崎書店
定価1,200円+税



ドラゴンのなみだ
佐々木ひとみ/作
吉田尚令/絵
学研教育出版
定価1,300円+税



小学校高学年の部

北限の稲作にいでむ
*百万石を夢みた男、中山久蔵物語
川嶋康男/著
農山漁村文化協会
定価1,300円+税



クロテン
北国からの動物記 6
竹田津 実/文・写真
アリス館
定価1,400円+税



ガチャガチャ☆GOTCHA!
カプセルの中の神さま
宮下恵菜/作
宮尾和孝/絵
朝日学生新聞社
定価1,000円+税



中学生の部

毎日新聞社 記事づくりの現場
深光富士男/文
佼成出版社
定価1,500円+税



レディが群れに帰るまで
母を亡くしたチンパンジーと飼育員の物語
野谷悦子/著
寿郎社
定価1,400円+税



北海道の本を読みましょう!

第60回 青少年読書感想文全道コンクール
第40回 北海道指定図書読書感想文コンクール

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。
詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。

学校図書館情報

◆平成27年度北海道学校図書館協会 定期総会の開催

- ・日時 平成27年5月9日(土) 14:00～
- ・場所 北海道立道民活動センター (かでの2・7) 1060会議室
札幌市中央区北2条西7丁目
各支部の総会参加をよろしくお願いいたします。

◆全国学校図書館協議会各県事務局長会議開催

2月5日(木) 東京の学校図書館センター(公益社団法人全国学校図書館協議会事務局)にて開催されました。北海道から門前会長、齋藤事務局長、大久保事務局次長が参加しました。

2015年度活動方針事業計画、財政再建化計画について、全国SLA発行書籍の普及等についての報告がなされました。更にはSLBAの参加促進について、各県の特段の協力をお願いしたい旨の説明や、課題図書や指定図書の普及のお願いもあり、2016年に控えたIASL東京大会の組織委員会の事務局としての立場からの、森田理事長の協力要請の説明もありました。



翌日6日(金) 午前の国会議員への要請活動では、「学校司書の配置拡大、資格及び養成制度並びに研修の早期実現」「司書教諭の専任化・担当時間の確保、教育委員会による発令」「第五次の『学校図書館図書整備5か年計画』の策定」の三点を中心に、衆参両議員会館へ足を運び、地元である北海道選出議員にお願いをして参りました。

◆第66回北日本図書館大会北海道大会・第57回北海道図書館大会のお知らせ

- ・日時 平成27年6月25日(木) 26日(金)
- ・会場 札幌市教育文化会館 小ホール他
- ・参加者 公共図書館・公民館・大学図書館・学校図書館・専門図書館・市町村教育委員会等関係機関の職員・図書館協議会委員・図書館に興味のある方等
- ・基調講演講師 桜木 紫乃 氏(直木賞作家)
北海道学校図書館協会も構成団体の一つである、北海道図書館連絡会議が主催の大会です。北海道の図書館人が一堂に会する、年に一度の大会です。学校図書館関係者の多くのご参加を!(今年は北日本図書館大会と共催です)

事務局

事務局長 齋藤 昇一(札幌市立藻岩中学校校長)
TEL 011-571-6039
FAX 011-572-3333
事務局校 札幌市立平和通小学校
事務局次長 野村 邦重
〒003-0027 札幌市白石区本通15丁目北3-1
TEL 011-863-0235 FAX 011-863-0265

Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメンティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15
TEL (011) 857-3331
FAX (011) 857-5211

◆第60回青少年読書感想文全国コンクール

表彰式が平成27年2月6日(金)東京の経団連会館を会場に、皇太子殿下御臨席のもと、盛大に挙行されました。北海道からは小学校中学年の部で、苫小牧市立北星小学校3年鈴木のぞみさんが、みごと優良賞を受賞し、全国表彰式に招待されて、授賞式に臨みました。その他にもサントリー奨励賞2名、入選7名の結果を残すことができました。今回で60回ということで、記念企画も多くありました。来年も北海道から多くの優れた作品が全国大会で入賞することを期待しております。



<鈴木さんとご家族の記念撮影>

◆第41回北海道学校図書館研究大会 室蘭大会のお知らせ

- ・日時 平成27年9月4日(金)・5日(土)
- ・会場 【第1日目】室蘭市立旭ヶ丘小学校
(授業会場・開会式・全体会・分科会)
ベネディクト幼稚園・室蘭市立みなと小学校
室蘭市立八丁平小学校・室蘭市立校蘭中学校
室蘭市立星蘭中学校・海星学院高等学校
蓬峯殿(交流会会場)
【第2日目】室蘭市立旭ヶ丘小学校
(セッション・記念講演・閉会式)
室蘭市港の文学館(セッション会場)
ぶらっと・てついち(セッション会場)
- ・主題 「心豊かに未来を切り拓く力を培う学校図書館」
～深まる学び 広がることば 膨らむ可能性～
- ・記念講演 武田 美穂 氏(絵本作家)

編集後記

春の訪れが待ち遠しい季節となりました。今年度開催の第2回読書感想画全道コンクールへは、応募が倍増し、大変多くの応募を頂くことができました。来年度もさらに充実したものとなりますよう、関係各位のご協力をよろしくお願いいたします。

編集: 杉本 操 村山 知成 野村 邦重
大久保雅人 齋藤 昇一

ホームページアドレス

<http://sla.gr.jp/~hokkaido-sla/>